



高校・高専生！わがまちビジネスアイデアコンテスト2010全国大会

# 富川高校生が全国大会で入賞！

～ 地域への思いを形に ～ 日高たこしゃぶうどん製作の取り組み

1月9日・10日の2日間にわたり、社団法人全国信用金庫協会主催による、「高校・高専生！わがまちビジネスアイデア・コンテスト2010全国大会」が、東京都で開催されました。

このコンテストは、地域の課題や魅力を若者から見いだしてもらおうと、今年初めて開催され、富川高校は、エントリーした北海道34グループの中から、北海道代表として選出され、道内他の2チームとともに全国大会出場の切符を手に入れました。

富川高校の提案したアイデアは、「川と畑と高校生で、いざ町おこし！」と題し、日高町における日高地区の道の駅「樹海ロード日高」の来場者数の減少と、高齢化率の高さを問題として提起。高校生の力で町を救おうと解決策を見いだすというものです。具体的には、町の特産品を活用し、新たに商品開発を行う。これにより「新たな雇用の創出・日高食材のブランド化・観光客の増加」が見込めるというものです。

すでに商品開発も手がけており、1月に限定発売された「日高たこしゃぶうどん」は、取り扱った事業所によると、大変な人気で、即日完売したということで、購入できなかった方々から増産を望む声が聞こえています。

全国大会では、商業科の3名が代表として出場し、全国から集まった高校生や審査員の前で日高の現状を訴え、堂々とした発表を行いました。

結果は、出場した高校生の投票による部門で見事1位となり、「わがまちアイデア共感賞」を受賞しました。

これまで生徒を指導し、共に活動を行ってきた櫻井智教諭は、「地域の方々に理解され、応援されていることを実感しています。生徒は本当に良くやってくれました。コミュニケーション能力を発揮する良い機会を与えていただき感謝しています。」と話し、生徒の健闘を讃えました。



(全国大会での発表に使用したポスター)



(賞状を手にし、喜ぶ藤岡校長と生徒たち)



(門別総合町民センターに取り組みを展示)



## 町内各保育所などで節分行事「福の神」も鬼に“歓喜”と“悲鳴”の音が響く！！

2月3日の節分にあわせ、町内の保育所などでは、恒例の節分行事が行われました。

わくわく館では、約40組100名の親子が参加し、歌やゲームを楽しんだ後、職員が作った鬼の人形に子どもたちがボールをぶつけて退治しました。

福の神も登場し、子どもたちに向けて「お菓子まき」も行われました。

最後は鬼・福の神と一緒に記念撮影もあり、子どもたちの笑顔があふれました。



(わくわく館)



(富川二葉保育所)



(わくわく館)

## 富川小学校「教育用コンピューター」更新

【情報モラル教育】や【共同学習】「英語」などの学習に広く利用されます

このほど、富川小学校の学習用パソコンが更新され、新たに児童用17台と教室移動用6台の計23台が納入されました。これまでの整然と並んだパソコン教室とは異なり、共同学習の実践を目的に、従来のテーブルに替わりカラフルに色分けされた丸形のテーブルを4箇所に分けて配置し、1つのテーブルに4台配置されたパソコンは2人で1台を使用。グループごとの作業も容易に行うことができます。

また、教室へ移動して使用することができる「普通教室用ラック」を6台導入し、授業のワンポイントとして使用することが可能となりました。これにより、英語や算数などのフラッシュ教育等の導入が可能となり、授業方法の幅が広がるものと期待されています。

今後は、他の学校についても順次整備する予定となっています。

